

会員の皆様

季節は一気に変わり、すでに真夏日に何回もなった地域があります。

新型コロナウイルス感染症はやや治まり始めた兆しがあるのですが、まだまだ、気をつけなければなりません。医療者の方はワクチンの接種を終えた方がほとんどでしょうか。早く安心できる状態に戻ってほしいものです。

今回の∞メールでは条件反射制御法を受けた性嗜好障害の方から、入院前の状態についていただいた報告を掲載します。すでに、入院中の変化と退院後の状態についての原稿も届きました。それらは次号以降の∞メールに掲載いたします。今回は、一連のご報告の1つめです。

平井慎二

CRCTを受けた方からの報告

私の性嗜好障害と CRCT 体験記（1）

— 藁にもすがる思いで入院しました —

R. O.

私は電車内の痴漢行為によって4回も刑務所に入った30代後半の男です。逮捕されていない痴漢を含めると、1000回以上行って来たと思います。ほとんどの刑期が1年以下と短いとはいえ、20代から何度も刑務所を出入りしてきました。他の性行動も活発で、出会い系などのサイトを利用して100人以上の女性と会ってきました。

そう聞くと、見た目は清潔感がなくて気持ち悪く、無職かつ住所不定の男を想像なさるかもしれません。しかし、4度目の刑務所に入る直前までの数年間は、得意の語学を生かして主にヨーロッパを中心とした海外出張を繰り返す生活をしていました。お客様と接する機会も多く、仕事上では「明るく社交的」と言われることが多いです。ずっと学校の成績は良く、スポーツも得意でした。

そんな私ですが、物心ついた時からコミュニケーションには難がありました。集団に合わせることがとても苦手で、いわゆる「空気を読めない」子でした。しかし、中学・高校の6年間はずっと学級委員長を務めてきていて「空気を作り出

す・導く」ことには長けていました。私のコミュニケーション能力には著しく偏りがあり、どうして人との付き合いがうまくいかないのだろうとずっと悩み、自己肯定ができずに生きてきました。

痴漢の直接のきっかけはインターネット上にあった「痴漢体験記」でした。たまたま読んだもので、どんな風に痴漢をしたか自慢気に書いている掲示板でした。今思えば真偽が定かでないものがほとんどだと思いますが、当時中学生だった私は興奮し、「私にもできるかもしれない」と思ってしまいました。

高校の通学は満員電車で、初めてスカートの上からわずかに触れた女子高生は全く身じろぎもせず抵抗しませんでした。その方は毎日同じ時間の同じ車両に乗っており、しだいに私の行為はエスカレートし、スカートや下着の中にも手を入れるようになりました。とても怖くて動けなかつただけだと思いますが、私は「この子は嫌がっていない。私は受け入れられたんだ」と自分勝手に解釈しました。痴漢をしている時は、相手を自分の意のままに支配できているような感覚と、いけないことをしている背徳感で満たされました。自尊心が満たされるような感覚もありました。

スカートの上から始めはわずかに偶然に触れているようにして、周りにバレないように被害者から声を上げられないように慎重に行為をエスカレートしていく。「今日はスカートの中まで手を入れられた」など、自分自身のスキルが上がっていくような達成感のようなものを感じられ、私はのめり込んでしまいました。それは風俗や合意の性行為では味わえないものでした。

ほとんどの加害者がそうだと思いますが、慣れている痴漢ほどホームで女性を物色しています。スカートを履いている大人しくて声を上げなそうな、混雑している車両に乗り込む女性をターゲットにするのです。「黒髪から金髪にしたら痴漢に遭わなくなった」という記事を読んだことがあります。とても納得できます。ホームで物色をして、その後ろ姿を追いかけて電車に乗り込みます。何度も繰り返しているうちに、スカートを履いた後ろ姿の清楚系の女性をみただけで、興奮するようになりました。また、私は満員電車に乗った時だけでなく、電車の音やアナウンス音を耳にしたりテレビなどで満員電車を目にしたりするだけでも動悸が早くなってきました。これらはまさに条件反射が形成されたのだと思います。

高校3年生の時に初めて痴漢で逮捕され1ヶ月半ほど勾留されましたが、私は否認し続けました。20年ほど前は、今では違法になってしまうほどの長時間の取り調べ、自白強要、恫喝、調書の一部改ざんなどが行われました。（現在はそれらを防ぐためにかなりシステムが変わりました）。それらが行われたことによって、私が行った痴漢行為に対する冤罪の疑いが強まってしまい、弁護団が結成

され、いくつかの大きな新聞社と報道番組から取材を受け、私の大学の入学式にもカメラが入りました。多くの方からご支援を受け、私は自分が犯したことに對する反省が深まるどころか、自分を悲劇のヒーローのように感じてしまいました。私の両親は喧嘩ばかりしていましたが、「冤罪の息子を助けよう」ということで結束し、仲が良くなりました。私の犯罪行為はむしろ正当化されたように思ってしまったのです。そして徐々に「本当に私は痴漢行為をしていなくて冤罪なのだ」とすら思うようになってきました。裁判は数年かかり、私は執行猶予付きの有罪判決を受けました。

数年後に私はまた逮捕され、今度は刑務所に入ることになりました。家族をはじめ私の周囲には申し訳ないと思いましたが、被害者に対する謝罪の気持ちはほとんどありませんでした。刑務所の中では「今度こそもっとバレないようにうまくできるはず」「あの被害者は確かに嫌がったけれど、なかには触られて感じている女もいるに違いない」「満員電車で触られやすい服装で乗るのが悪い」など身勝手なことを思っていました。出会い系サイトで会った女性と電車や映画館などで痴漢の疑似プレイを繰り返してきたことも、私の感覚を狂わせてきた一因だと思います。

何度か逮捕されているうちに、さすがにこのままではマズイと思い、精神科のクリニックに通いました。痴漢専門のクリニックに通い、認知行動療法を受けました。そこでは、被害者の方たちの傷の深さや苦しみ、ストレスマネジメント、どのようなことがきっかけで自分が痴漢行為に至りやすいのか、それを避けるにはどうしたら良いのかなどを学びました。

それらは私にとって役に立ったと思います。実際、痴漢行為が収まった時期もありました。しかし結局、私は私自身を止めることができませんでした。普段は理性を保てていても、満員電車でスカートの女性を見かけると身体と脳が勝手に動いてしまうような強い力が働きました。脳がふつつつと煮立ち、動悸が上がり、呼吸が乱れ、活力が湧いてきます。私にとっての痴漢とは狩猟のようなものでした。一般の方はジェットコースターに乗ったときの感覚に近いかもしれませんが、やっかいなことに「また捕まってしまうかもしれない」という自分の人生をかけたリスクがあることに對して、逆に底しれぬスリルや興奮を感じるようになっていました。

当然のことながら満員電車を普段から避けるようにしました。私は満員電車が発生しない海外の仕事を多く入れるようにしました。しかし、日本滞在時には急な事故や遅延などで予期せぬ満員電車が発生してしまうことがあり、直近はドイツから帰国した直後の電車で再犯をして逮捕されてしまいました。

条件反射のように身体が勝手に動いてしまうような私は、いったい何者なのだろうと思いました。私は日頃からフルマラソンを走ったり語学を勉強したりと、人と比べて意思は決して弱くないと思います。仕事では無断欠勤や遅刻をせず、他の犯罪もしません。しかし性的なこと、特に痴漢に対してはどうしても抑えることができない。痴漢したい気持ちがないにも関わらず、なんだかやらなければ落ち着かないような、一種の義務感のようなものすら感じた時もありました。これは決して、欲求、ストレス、意思や共感性の欠如だけの問題ではないのだと思って色々調べたところ、条件反射制御法を知りました。入院前に何度も電話やメールでお問い合わせしたにも関わらず、精神保健福祉士のHさんから丁寧な回答をいただけたことも信頼でき、私は下総精神医療センターへの入院を決意しました。海外の文献まで読みあさって色々試しているにも関わらず今まで治すことができないので、私は藁にもすがる思いでした。

(2021年5月11日 寄稿)

事務局等からのお知らせ

理事会の報告

2021年6月6日に開催された理事会の内容をご報告します。

1. 役員選挙について

現在の役員の任期は来年3月31日までです。

今年9月25日の総会で選挙の計画を告知します。

2. 年会費の支払いについて

長期間、年会費を支払っていない方は、過去2年間の支払いをすることにより、通常の会員として学会の活動に参加できます。過去の年会費（2019年度年会費、2020年度年会費）は、学会HP→お問い合わせ→会員手続き よりお支払い手続きが可能です。

3. 法務省への要望書

次の3点について、条件反射制御法学会から法務省に要望書を出すことが決まりました。

- ・性嗜好障害に対するCRCTによる治療に関する効果検証の研究への協力

- ・ 保護観察対象者に対して特別遵守事項で義務付ける専門的援助の拡大
- ・ 矯正施設における条件反射制御法を用いた改善指導の試験的開始

4. 企業を対象とした薬物検出検査を用いた薬物乱用対策

これは条件反射制御法学会が主体となり、企業の職員を対象にして、規制薬物の乱用の開始を予防すること、並びに、乱用の継続を中止させることを目的にしています。

条件反射制御法学会が雇用した通報する義務を負わない者が、この事業に参加する企業に出向き、予告した尿検査を規則的に行います。検査で陽性になった者がいて、その者から同意が得られれば、2週間を経た後に警察に伝えます。警察職員は伝えられた者に対して観察と指導を反復し、捜査に移ることもあります。対象者が薬物を使わない生活を送ること、あるいは証拠が揃えば検挙して、個人の豊かな生活と社会の安全を保つシステムを作ろうとするものです。

まずは千葉市を中心としたエリアを対象にすすめます。

5. 大麻使用を違法とする法の創設に賛成する意見の確認

厚生労働省は、大麻に関して、法律ですでに規制されている所持や栽培などに加え、使用を規制する法改正を行なう方向で検討しています。それに対して、「大麻使用罪創設に反対する依存症関連団体・支援者ネットワーク」から「声明：私たちは大麻使用罪の創設に反対します！」が2021年6月2日に出されました。

条件反射制御法学会は会則第3条に「・・・反復する違法行為に対応する社会制度のあり方に関する学術研究の促進を目的とする。」とあります。また、ホームページの∞連携支持施設の頁でも示すように、取締職員が使用を検挙することに基づく法の抑止力の発生を、効果的なものであり、より効果的な連携への発展のためにも保つべきものであることを確認しました。

CRCT を受けられる施設を公開しています

条件反射制御法を受けたい方に、どこにいけばこの技法が受けられるかを伝えるため、本学会のホームページで **CRCT 実施施設** を公開しています。

掲載されている施設数は、前回（5/16）のお知らせと同じで、現時点（6/11）で27施設です。

ご協力いただける方は事務局のメール、crct.mugen@gmail.com宛に下記項目をお送りください。

- ・ 貴施設名、所在地、電話番号、メールアドレス、ホームページURL
(施設写真の掲載希望がございましたら画像データを添付してください)
- ・ 申込窓口 (担当部署・担当者名等)
- ・ コンタクト方法 (例：電話、E-mail、HP申込フォーム)
- ・ CRCTを提供している場
(例：入院病棟、外来、カウンセリングルーム、回復支援施設等)
- ・ 対象にしている疾病
- ・ 施設の特長 (フリーコメント なんでもどうぞ)

援助側と取締処分側の∞連携支持施設を紹介しています

治療を求めた患者による規制薬物使用への対応として、患者の治療意欲と社会の平安を保つ観点から効果的であり、また、司法の観点からも合法と考えられる方法を採用し、実行に移している施設を本学会のホームページ

∞連携支持施設 で公開しています。現在6施設です。

∞連携に沿う態勢で実務をされており、当会のHPに∞連携支持施設として掲載させていただき施設の方は事務局のメール crct.mugen@gmail.com 宛にその旨のご連絡をくださるようお願いいたします。

条件反射制御法学会のご案内

条件反射制御法学会第十回学会 (主催：条件反射制御法学会)

日 時：2021年9月25日 (土) 10:00～18:00

場 所：オンライン

テーマ：トラウマと逸脱行動

会 費：会員 3000 円、非会員 8000 円

プログラム：

自由報告

講演：EMDR —その手続きと効果—

講師 市井雅哉先生 (日本EMDR学会理事長)

講演：PTSD等に対するCRCT

講師 平井慎二

対談：上記2人の講師による

シンポジウム：本当はどのような有責性があるか。

～ 反復する薬物乱用・万引き・痴漢行為を考える ～

司会 飯野海彦

登壇者 高橋洋平弁護士

林大悟弁護士

小竹広子弁護士

条件反射制御法に関する研修会・実地研修等のご案内

現時点で開催を予定している研修会をご案内します。

- ・条件反射制御法オンライン研修会 シリーズ1 ※6月21日（月）締切です
これまで集合して行っていた内容を4回に分けて、次のように行います。

1-1 7月 3日（土）10：00～12：00

ヒトが行動するメカニズムと反復行動をもつ者の要素と対応

1-2 7月10日（土）10：00～12：00

条件反射制御法の基本、体験の書き出し、制御刺激ステージ

1-3 7月17日（土）10：00～12：00

疑似ステージ、本能行動に対する技法の調整、さまざまなサティスフェイク

1-4 7月22日（木）10：00～12：00

想像ステージ、維持ステージ、技法と司法への影響

- ・条件反射制御法実地研修

主催・実施場所：下総精神医療センター、定員：2名

2021年 7月26日（月）～ 7月30日（金）

2021年 8月23日（月）～ 8月27日（金）

2021年 9月13日（月）～ 9月17日（金）

2021年10月25日（月）～10月29日（金）

2021年11月15日（月）～11月19日（金） 残1席

2021年12月 6日（月）～12月10日（金） 残1席

2022年 1月24日（月）～ 1月28日（金）

集合しての研修会は、現時点では開催時期未定ですが、ロールプレイ等を通じて、中枢の作用を体験的に理解し、その理解が現場での対応に活かされるように技法の詳細をお伝えします。

ご投稿について

条件反射制御法研究および∞メールへ奮ってご投稿ください。

宛先は、事務局のメール crct.mugen@gmail.com です。

●条件反射制御法研究

学会誌「条件反射制御法研究」は年に一度、発行します。その学会誌へのご投稿をお待ちしております。投稿規定は、最終号の巻末に掲載されています。

●∞メール

C R C Tや信号系学説に関係する小論、C R C Tを用いての治療体験あるいは回復した体験、実地研修の体験、他の学会で報告した感想、裁判でC R C Tの効果が認められた体験等に関して1600字程度の報告をお待ちしております。

発行

条件反射制御法学会事務局

〒162-0055 東京都新宿区余丁町14-4 NPO 法人アパリ内

<https://crct-mugen.jp> crct.mugen@gmail.com

TEL:090-3047-1573 FAX:050-3458-0214